

カ 航空機配備変遷（米軍）

（令和元年12月1日現在）

表2-8

機 種	配備 ◎	退役 ●	年 次																
			H 16	H 17	H 18	H 19	H 20	H 21	H 22	H 23	H 24	H 25	H 26	H 27	H 28	H 29	H 30	R 01	
FA-18 (C, D) ホーネット 戦闘攻撃機	S62	現役	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
EA-6B グラウラー 電子戦機	不明	退役	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●			
AV-8B ハリアーII 攻撃機	H元	移駐	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
CH-53D シーストリオン ヘリコプター	H14	移駐	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○							
UC-12F スーパーキングエア 汎用機	S63	現役	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○							
UC-12W スーパーキングエア 汎用機	H14	現役	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
KC-130J スーパーハーキュリーズ 空中給油機	H26	現役	—	—	—	—	—	—	—	—	—	◎	○	○	○	○	○		
F-35B ライトニングII 戦闘機	H29	現役	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	◎	○	○		
FA-18 (E, F) スーパーホーネット 戦闘攻撃機	H30	現役	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	◎	○		
EA-18G グラウラー 電子戦機	H30	現役	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	◎	○		
E-2D アトバンストホークアイ 早期警戒機	H30	現役	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	◎	○		
C-2A グレイハウンド 輸送機	H30	現役	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	◎	○		

（米海兵隊岩国航空基地）

キ 基地人口

表2-9 基地人口の推移 (年間平均)

年次	区分	軍人 (約/人)	軍属 (約/人)	家族 (約/人)	計 (約/人)
昭和	50	5,970	60	970	7,000
	51	4,300	65	820	5,200
	52	4,500	80	1,450	6,000
	53	4,650	80	1,340	6,100
	54	3,850	75	1,170	5,100
	55	3,920	80	1,160	5,160
	56	4,080	90	1,040	5,210
	57	4,430	100	1,200	5,730
	58	4,450	100	1,360	5,910
	59	3,800	110	1,470	5,380
	60	3,720	140	1,680	5,540
	61	3,710	130	1,680	5,520
	62	3,700	150	1,710	5,560
	63	3,900	150	1,600	5,650
平成	元	3,440	160	1,690	5,290
	2	3,200	160	1,510	4,870
	3	3,000	150	1,500	4,650
	4	3,000	170	1,400	4,570
	5	3,000	170	1,490	4,660
	6	2,900	180	1,580	4,660
	7	2,800	210	1,690	4,700
	8	2,650	210	1,590	4,450
	9	2,790	220	1,730	4,740
	10	2,690	230	1,880	4,800
	11	2,420	230	1,920	4,570
	12	2,680	220	2,060	4,960
	13	3,000	200	2,100	5,300
	14	3,100	240	2,100	5,440
	15	3,000	350	2,000	5,350
	16	3,490	290	2,260	6,040
	17	3,210	260	2,710	6,180
18	2,990	320	2,380	5,690	
19	2,800	310	2,580	5,700	
20	2,740	310	2,420	5,470	
21	3,000	300	2,350	5,650	
22	2,600	330	2,230	5,160	
23	2,600	360	2,170	5,130	
24	2,780	610	2,220	5,610	
25	3,180	600	1,930	5,710	
26	—	—	—	—	
27	—	—	—	—	
28	3,500	400	2,500	6,500	
29	—	—	—	—	
30	—	—	—	—	
令和元	—	—	—	—	

(米海兵隊岩国航空基地・中国四国防衛局)

※ 「軍人」(合衆国軍隊の構成員)とは、日本国の領域にある間におけるアメリカ合衆国の陸軍、海軍又は空軍に属する人員で現に服役中のものをいう。

※ 「軍属」とは、合衆国の国籍を有する文民で日本国にある合衆国軍隊に雇用され、これに勤務し、又はこれに随伴するものをいう。

※ 「－」の部分については、米側からの情報提供なし。

※ 「家族」とは、次のものをいう。〔資料 2(2)第 1 条から一部抜粋〕

(1) 配偶者及び 21 才未満の子

(2) 父、母及び 21 才以上の子で、その生計費の半額以上を合衆国軍隊の構成員又は軍属に依存するもの

ク 航空機離着陸回数（自衛隊機等も含む）

表 2-10 年次ごとの航空機離着陸回数

年 次	年間離着陸回数（約／回）	年 次	年間離着陸回数（約／回）
昭 和 50	72,000	10	54,000
51	64,000	11	43,000
52	72,000	12	59,000
53	62,000	13	54,000
54	53,000	14	50,000
55	55,000	15	54,000
56	58,000	16	47,000
57	57,000	17	43,000
58	45,000	18	49,000
59	50,000	19	52,000
60	53,000	20	48,000
61	48,000	21	47,000
62	53,000	22	45,000
63	28,000	23	43,000
平 成 元	48,000	24	41,000
2	51,000	25	48,000
3	52,000	26	47,000
4	59,000	27	44,000
5	67,000	28	54,000
6	58,000	29	—
7	57,000	30	—
8	54,000	令 和 元	—
9	55,000		

(注) 滑走路改修

S58. 8月～9月、S61. 8月～9月、S63. 5月～9月、H11. 2月～4月

(中国四国防衛局)

## ケ オスプレイに関する経緯

平成 24 年(2012)

- 平成 24 年 3 月 7 日 オスプレイを岩国基地に一時駐機するとの報道があった。
- 平成 24 年 3 月 8 日 岩国基地への一時駐機等について照会を行ったところ、中国四国防衛局から「配備スケジュール等の詳細については、米側で検討中である。」との回答があった。
- 平成 24 年 3 月 22 日 市長及び県知事の外務大臣及び防衛大臣の訪問の際、両大臣より、「オスプレイの配備については現在も米側で検討中。岩国へ配備することはない。」旨、発言があった。
- 平成 24 年 4 月 11 日 モロッコにおいてMV-22 オスプレイの墜落事故が発生した。
- 平成 24 年 6 月 8 日 モロッコでの事故に関し、防衛省が「機体の不具合はなかった」との米軍の調査結果の概要を発表した。
- 平成 24 年 6 月 9 日 MV-22 オスプレイの岩国基地への一時駐機等に関する報道があった。
- 平成 24 年 6 月 11 日 防衛大臣政務官が来庁し、MV-22 オスプレイの岩国基地一時駐機等を要請した。市長は、「了解できない。安全性等をしっかり確認したうえで判断する。」旨、回答した。
- 平成 24 年 6 月 14 日 米国フロリダ州においてCV-22 オスプレイ（空軍）の墜落事故が発生した。
- 平成 24 年 6 月 15 日 MV-22 オスプレイの配備に関する「環境レビュー」について、防衛省より説明を受けた。
- 平成 24 年 6 月 22 日 岩国市議会本会議において「岩国基地への新型輸送機MV-22 オスプレイの陸揚げ・一時駐機に反対する意見書」が決議された。
- 平成 24 年 6 月 26 日 中国四国防衛局長より、MV-22（モロッコ）及びCV-22（フロリダ州）オスプレイの事故について説明を受けた。
- 平成 24 年 6 月 29 日 米国からMV-22 オスプレイの配備についての接受国通報が行われた。同日、中国四国防衛局長より説明を受けた。
- 平成 24 年 7 月 1 日 防衛大臣が来庁し、6月29日に米国からあった接受国通報について説明された。大臣は、「安全性が再確認されるまでの間は飛行運用は行わない。」など述べられ、市長は、「安全性が確認できない状況では了解することはできない。」旨、回答した。
- 平成 24 年 7 月 4 日 MV-22 オスプレイを搭載した輸送船が7月1日に米国本土を出航し、7月24日頃岩国に到着見通しとの報道があった。
- 平成 24 年 7 月 9 日 山口県基地関係県市町連絡協議会総会が開催され、「MV-22 オスプレイの配備等に関する要請書」を外務・防衛省に提出することを承認した。
- 平成 24 年 7 月 10 日 市長及び県知事、県議会議長が外務大臣政務官及び防衛大臣に面会し、県市町連絡協議会として「MV-22 オスプレイの配備等に関する要請書」を提出した。
- 平成 24 年 7 月 11 日 オスプレイ（海兵隊）が米ノースカロライナ州の民間空港に緊急着陸との報道があった。
- 平成 24 年 7 月 16 日 「オスプレイ搬入反対市民集会」（連合主催）に市長が出席した。
- 平成 24 年 7 月 20 日 オスプレイの陸揚げについて中国四国防衛局長より説明を受けた。米側の情報では、7月23日に予定しているとの内容であった。
- 平成 24 年 7 月 23 日 早朝、オスプレイを積んだ輸送船「グリーン・リッジ」が岩国基地港湾施設に入港、同日、陸揚げが行われた。同船は陸揚げ後、夕方、岩国基地を出港した。
- 平成 24 年 7 月 25 日 市長、市議会副議長が上京し、県知事、県議会議長と共に外務・防衛両大

臣にオスプレイに関する抗議及び要請を行った。

平成 24 年 8 月 9 日 岩国基地に陸揚げされたオスプレイ 5 機がエンジンを始動した。

平成 24 年 8 月 13 日 山口県基地関係県市町連絡協議会が中国四国防衛局長に安全性が確認されるまでは試験飛行を行わないことなどを口頭要請した。

平成 24 年 8 月 16 日 防衛大臣政務官がオスプレイの事故に関する米側の最終調査報告の説明を受けるため訪米した。

平成 24 年 8 月 25 日 米国国防総省がモロッコでの事故の原因について、「人為的ミス」との調査結果を防衛大臣政務官に説明した。

平成 24 年 8 月 28 日 県及び市が「環境レビュー」に関する照会文を中国四国防衛局に送付した。

平成 24 年 8 月 30 日 政府の分析評価チームがモロッコでの事故の原因について、「人為的ミス」との報告をまとめた。

平成 24 年 8 月 30 日 防衛省がモロッコでの事故の「分析評価報告書」を公表した。同日、中国四国防衛局長が岩国市に持参した。

平成 24 年 9 月 8 日 防衛大臣が来庁し、モロッコでの事故の「分析評価報告書」について説明された。事故の原因は「人為的ミス」、機体に問題はないとの説明を受けた。市長は「フロリダの状況がわかるまでは判断できない。」旨、回答した。

平成 24 年 9 月 12 日 米国国防総省がフロリダ州での事故の原因について、「人為的ミス」との報告書を発表した。

平成 24 年 9 月 14 日 MV-22 オスプレイが米ノースカロライナ州の市街地に緊急着陸したとの報道があった。

平成 24 年 9 月 18 日 防衛大臣・防衛大臣政務官が来庁し、フロリダでの事故の「分析評価報告書」について、事故の原因は「人為的ミス」、機体に問題はないとの説明をされた。市長は、「住民の不安が直ちに払拭できたとはいえない。総合的に最終評価を聞いてから安全性について慎重かつ冷静に判断したい。」旨、回答した。

平成 24 年 9 月 19 日 オスプレイの事故報告について全員協議会が開催され、防衛大臣政務官他から説明を受けた。

平成 24 年 9 月 20 日 オスプレイの飛行運用に関する政府の一連の安全確認作業が完了し、総理大臣が了承した。

平成 24 年 9 月 21 日 午前中、オスプレイの運用について日米合同委員会合意が行われた。午後、防衛大臣が来庁し、米側の飛行運用を開始させると市へ説明され、理解を求めた。市長は、「準備飛行は認められないと言わざるを得ない。」旨、回答した。

平成 24 年 9 月 27 日 市議会本会議において、市長が「政府のMV-22 オスプレイの安全宣言及び準備飛行開始に関する市の対応について」の報告を行った。

平成 24 年 10 月 1 日 オスプレイの準備飛行が始まった。

平成 24 年 10 月 2 日 岩国基地でオスプレイの体験搭乗が実施され、市職員 3 名が情報収集の一環として搭乗した。

平成 24 年 10 月 6 日 オスプレイ 6 機が普天間基地へ移動を開始した。

平成 24 年 10 月 18 日 オスプレイ 3 機が普天間基地へ移動し、12 機全機の移動が完了した。

平成 24 年 10 月 19 日 防衛副大臣が来庁し、10 月 6 日のオスプレイ全機の沖縄への移動の完了を報告した。市長は、運用における合同委員会合意の遵守や積極的な情報提供などを要請した。

平成 24 年 10 月 23 日 オスプレイ 2 機が岩国基地に飛来した。(沖縄へ配備後、初めての飛来。)

平成 24 年 10 月 23 日 オスプレイ 2 機が岩国基地に飛来した。普天間基地で初の夜間訓練飛行が行われた。

平成 24 年 12 月 10 日 普天間基地配備のオスプレイ 3 機が 11 月末からグアムなどで実施されている米軍事演習に初めて参加した。

平成 25 年(2013)

平成 25 年 3 月 6 日 オスプレイ 3 機が岩国基地に飛来した。

平成 25 年 3 月 7 日 オスプレイ 2 機が初の夜間飛行訓練を行った。

平成 25 年 3 月 19 日 オスプレイ 4 機が岩国基地に飛来した。

平成 25 年 3 月 21 日 オスプレイ 1 機が岩国基地に飛来した。

平成 25 年 3 月 31 日 オスプレイ第 2 陣 (12 機) の搬入についても岩国基地を経由する方向で日米で調整中との報道があった。

平成 25 年 4 月 22 日 オスプレイ 6 機が岩国基地に飛来した。

平成 25 年 4 月 30 日 防衛大臣政務官が来庁し、オスプレイ第 2 陣の普天間基地配備について説明し、第 1 陣と同様に岩国基地への陸揚げ・準備飛行を要請された。市長は、「説明内容は理解した。直接、那覇港湾施設に陸揚げを。」旨、回答した。

平成 25 年 5 月 7 日 オスプレイ 4 機が岩国基地に飛来した。

平成 25 年 5 月 20 日 オスプレイ 3 機が岩国基地に飛来した。

平成 25 年 5 月 22 日 オスプレイ 2 機が岩国基地に飛来した。

平成 25 年 6 月 4 日 オスプレイ 1 機が岩国基地に飛来した。

平成 25 年 7 月 1 日 オスプレイ 3 機が岩国基地に飛来した。

平成 25 年 7 月 1 日 防衛大臣政務官が来庁し、オスプレイ第 2 陣の普天間配備について (岩国飛行場への陸揚げ、滞在期間等) 説明された。市長は、「岩国への陸揚げは不本意。他方、沖縄の不安の軽減につながるとの説明には一定の理解をしている。」旨、回答した。

平成 25 年 7 月 26 日 中国四国防衛局からオスプレイの陸揚げについて説明を受けた。米側の情報では、7 月 30 日に到着の予定であるとの内容であった。

平成 25 年 7 月 30 日 早朝、オスプレイ (第 2 陣 12 機) を積んだ輸送船「グリーン・リッジ」が岩国基地港湾施設に入港し、同日、陸揚げが行われた。米軍は陸揚げ作業を基地内で報道関係者に公開し、市長が状況把握のため、基地内に入った。同船は陸揚げ後、出港した。

平成 25 年 8 月 2 日 オスプレイ 2 機が準備飛行を行った。

平成 25 年 8 月 3 日 オスプレイ 2 機が普天間基地へ移動した。

平成 25 年 8 月 4 日 オスプレイ 2 機が準備飛行を行った。

平成 25 年 8 月 5 日 オスプレイ 1 機が準備飛行を行った。沖縄で HH-60 ヘリ (空軍) の墜落事故が発生、事故を受け、米軍がオスプレイの普天間基地への移動の延期を発表した。

平成 25 年 8 月 6 日 オスプレイ 1 機が準備飛行を行った。移動の延期について、市長は「延期の事実は淡々と受け止めざるを得ない。延期の理由、期間、準備飛行について、国の説明を聞いて適切に対処する。」旨、述べた。

平成 25 年 8 月 7 日 オスプレイ 1 機が準備飛行を行った。

平成 25 年 8 月 8 日 市長が防衛省を訪問し、防衛大臣政務官に面会。移動の延期の理由、期間、準備飛行について説明を求めた。オスプレイ 1 機が準備飛行を行った。

平成 25 年 8 月 9 日 オスプレイ 4 機が準備飛行を行った。

平成 25 年 8 月 10 日 オスプレイ 3 機が準備飛行を行った。

平成 25 年 8 月 11 日 オスプレイ 3 機が準備飛行を行った。

平成 25 年 8 月 12 日 オスプレイ 9 機が普天間基地へ移動した。残り 1 機となった。

平成 25 年 8 月 23 日 オスプレイ 3 機が岩国基地に飛来した。

平成 25 年 8 月 27 日 米国ネバダ州米空軍クリーチ基地近くで MV-22 オスプレイ (ミラマー基

	地所属) がハードランディングした。
平成 25 年 9 月 6 日	防衛省がオスプレイを使用した「日米共同訓練」及び「日米共同統合防災訓練」について発表した。
平成 25 年 9 月 25 日	残っていたオスプレイ 1 機が普天間基地へ移動し、陸揚げされた 12 機全ての移動が完了した。
平成 25 年 10 月 15 日	オスプレイ 3 機が岩国基地に飛来した。
平成 25 年 10 月 16 日	岩国基地に飛来したオスプレイ 2 機が響庭野演習場で行われた日米共同訓練に参加した。オスプレイ 1 機が岩国基地に飛来した。
平成 25 年 10 月 22 日	オスプレイ 4 機が岩国基地に飛来した。
平成 25 年 10 月 25 日	オスプレイが参加の予定であった日米共同統合防災訓練が台風接近による悪天候のため中止となった。
平成 25 年 11 月 29 日	オスプレイ 1 機が岩国基地に飛来した。
平成 25 年 12 月 1 日	岩国基地に飛来したオスプレイ 1 機が新田原基地航空祭で地上展示された。
平成 26 年(2014)	
平成 26 年 2 月 7 日	高知県沿岸部で実施される日米共同統合防災訓練にオスプレイが参加(岩国基地も使用)の予定であったが、天候不良のため不参加となった。
平成 26 年 3 月 6 日	オスプレイ 1 機が岩国基地に飛来した。
平成 26 年 3 月 19 日	オスプレイ 3 機が岩国基地に飛来し、岩国基地で行われた「非戦闘員退避訓練」に参加した。
平成 26 年 3 月 27 日	オスプレイ 2 機が岩国基地に飛来した。
平成 26 年 3 月 28 日	オスプレイ 1 機が岩国基地に飛来した。
平成 26 年 4 月 7 日	オスプレイ 3 機が岩国基地に飛来した。
平成 26 年 5 月 4 日	オスプレイ 1 機が岩国基地に飛来した。
平成 26 年 5 月 5 日	オスプレイ 1 機が日米親善デーで地上展示された。
平成 26 年 5 月 23 日	オスプレイ 3 機が岩国基地に飛来した。
平成 26 年 5 月 24 日	オスプレイ 3 機が岩国基地に飛来した。
平成 26 年 5 月 30 日	オスプレイ 2 機が岩国基地に飛来した。
平成 26 年 6 月 3 日	オスプレイ 2 機が岩国基地に飛来した。
平成 26 年 6 月 13 日	オスプレイ 2 機が岩国基地に飛来した。
平成 26 年 6 月 20 日	普天間基地所属のオスプレイによる部品落下事故が発生した。(事故は 17 日に発生) 海上飛行中の落下、被害報告は無かった。事故を受け、県及び市は岩国防衛事務所に再発防止策等を要請した。
平成 26 年 6 月 25 日	オスプレイ 2 機が岩国基地に飛来した。
平成 26 年 6 月 30 日	オスプレイ 3 機が岩国基地に飛来した。
平成 26 年 7 月 1 日	オスプレイ 1 機が岩国基地に飛来した。
平成 26 年 7 月 15 日	オスプレイ 1 機が岩国基地を經由せず、厚木基地に飛来した。その後、キャンプ富士へ移動した。
平成 26 年 7 月 18 日	オスプレイ 3 機が岩国基地に飛来した。
平成 26 年 7 月 21 日	オスプレイ 3 機が岩国基地に飛来した。
平成 26 年 7 月 23 日	オスプレイ 3 機が岩国基地に飛来した。
平成 26 年 7 月 26 日	オスプレイ 2 機が岩国基地に飛来した。
平成 26 年 7 月 27 日	オスプレイ 1 機が岩国基地に飛来した。
平成 26 年 8 月 11 日	オスプレイ 1 機が岩国基地に飛来した。
平成 26 年 8 月 13 日	オスプレイ 2 機が岩国基地に飛来した。
平成 26 年 8 月 18 日	オスプレイ 4 機が岩国基地に飛来した。
平成 26 年 8 月 23 日	オスプレイ 1 機が岩国基地に飛来した。

平成 26 年 8 月 25 日	オスプレイ 3 機が岩国基地に飛来した。
平成 26 年 8 月 29 日	オスプレイ 2 機が岩国基地に飛来した。
平成 26 年 9 月 2 日	オスプレイ 2 機が岩国基地に飛来した。
平成 26 年 9 月 5 日	オスプレイ 2 機が岩国基地に飛来した。
平成 26 年 9 月 8 日	オスプレイ 2 機が岩国基地に飛来した。
平成 26 年 10 月 17 日	オスプレイ 3 機が岩国基地に飛来した。
平成 26 年 10 月 19 日	岩国基地に飛来したオスプレイ 2 機が南海トラフ地震を想定した津波災害対応訓練に参加した。
平成 26 年 10 月 24 日	オスプレイ 3 機が岩国基地に飛来した。
平成 26 年 10 月 27 日	オスプレイ 2 機が岩国基地に飛来した。
平成 26 年 11 月 1 日	オスプレイ 1 機が岩国基地に飛来した。
平成 26 年 11 月 6 日	オスプレイ 3 機が岩国基地に飛来した。
平成 26 年 11 月 10 日	オスプレイ 2 機が岩国基地に飛来した。
平成 26 年 12 月 6 日	オスプレイ 4 機が岩国基地に飛来した。
平成 26 年 12 月 11 日	オスプレイ 1 機が岩国基地に飛来した。
平成27年(2015)	
平成 27 年 3 月 27 日	オスプレイ 1 機が岩国基地に飛来した。
平成 27 年 3 月 29 日	オスプレイ 1 機が岩国基地に飛来した。
平成 27 年 4 月 17 日	オスプレイ 2 機が岩国基地に飛来した。
平成 27 年 5 月 5 日	オスプレイ 1 機が岩国基地に飛来した。
平成 27 年 5 月 7 日	米政府がオスプレイ 17 機を日本に売却するとの報道があった。
平成 27 年 5 月 8 日	オスプレイ 3 機が岩国基地に飛来した。
平成 27 年 5 月 11 日	オスプレイ 1 機が岩国基地に飛来した。
平成 27 年 5 月 12 日	米国防省が2017年後半からCV-22オスプレイを横田基地に配備することを発表した。
平成 27 年 5 月 18 日	米ハワイ・オアフ島でMV-22オスプレイの着陸失敗の事故が発生。副市長が中国四国防衛局長に遺憾の意を伝え、原因究明等を求めた。
平成 27 年 6 月 3 日	オスプレイ 3 機が岩国基地に飛来した。
平成 27 年 6 月 8 日	オスプレイ 3 機が岩国基地に飛来した。
平成 27 年 8 月 20 日	オスプレイ 4 機が岩国基地に飛来した。
平成 27 年 8 月 31 日	オスプレイ 2 機が岩国基地に飛来した。
平成 27 年 9 月 2 日	オスプレイ 2 機が岩国基地に飛来した。
平成 27 年 9 月 10 日	オスプレイ 4 機が岩国基地に飛来した。
平成 27 年 9 月 11 日	オスプレイ 2 機が岩国基地に飛来した。
平成 27 年 9 月 14 日	オスプレイ 1 機が岩国基地に飛来した。
平成 27 年 9 月 18 日	オスプレイ 2 機が岩国基地に飛来した。
平成 27 年 9 月 21 日	オスプレイ 1 機が岩国基地に飛来した。
平成 27 年 9 月 26 日	オスプレイ 4 機が岩国基地に飛来した。
平成 27 年 10 月 2 日	オスプレイ 4 機が岩国基地に飛来した。
平成 27 年 10 月 9 日	オスプレイ 2 機が岩国基地に飛来した。
平成 27 年 10 月 17 日	オスプレイ 1 機が岩国基地に飛来した。
平成 27 年 10 月 19 日	オスプレイ 3 機が岩国基地に飛来した。
平成 27 年 12 月 14 日	オスプレイ 1 機が岩国基地に飛来した。
平成 27 年 12 月 15 日	12月9日、米カリフォルニア州沖でMV-22オスプレイの着艦失敗の事故が発生。岩国防衛事務所長に安全管理の徹底及び飛行の安全確保を要請した。



平成28年(2016)

平成28年2月26日 オスプレイ1機が岩国基地に飛来した。  
平成28年3月2日 オスプレイ4機が岩国基地に飛来した。  
平成28年3月4日 オスプレイ2機が岩国基地に飛来した。  
平成28年3月7日 オスプレイ4機が岩国基地に飛来した。  
平成28年3月8日 オスプレイ1機が岩国基地に飛来した。  
平成28年3月9日 オスプレイ1機が岩国基地に飛来した。  
平成28年3月10日 オスプレイ1機が岩国基地に飛来した。  
平成28年3月11日 オスプレイ4機が岩国基地に飛来した。  
平成28年3月12日 オスプレイ1機が岩国基地に飛来した。  
平成28年3月13日 オスプレイ1機が岩国基地に飛来した。  
平成28年3月14日 オスプレイ2機が岩国基地に飛来した。  
平成28年3月15日 オスプレイ1機が岩国基地に飛来した。  
平成28年3月16日 オスプレイ1機が岩国基地に飛来した。  
平成28年3月17日 オスプレイ4機が岩国基地に飛来した。  
平成28年3月18日 オスプレイ4機が岩国基地に飛来した。  
平成28年3月19日 オスプレイ2機が岩国基地に飛来した。  
平成28年3月21日 オスプレイ4機が岩国基地に飛来した。  
平成28年3月22日 オスプレイ1機が岩国基地に飛来した。  
平成28年4月17日 オスプレイ4機が熊本地震での物資輸送等のため、岩国基地に飛来した。  
平成28年4月18日 オスプレイ6機が岩国基地に飛来した。  
平成28年4月19日 オスプレイ6機が岩国基地に飛来した。  
平成28年4月20日 オスプレイ3機が岩国基地に飛来した。  
平成28年4月22日 オスプレイ5機が岩国基地に飛来した。  
平成28年4月23日 オスプレイ5機が岩国基地に飛来した。  
平成28年5月5日 フレンドシップデーでオスプレイの地上展示及びデモ飛行を実施した。  
平成28年5月8日 オスプレイ1機が岩国基地に飛来した。  
平成28年5月11日 オスプレイ2機が岩国基地に飛来した。  
平成28年5月20日 オスプレイ5機が岩国基地に飛来した。  
平成28年5月22日 オスプレイ4機が岩国基地に飛来した。  
平成28年5月23日 オスプレイ5機が米国大統領の広島訪問に備えた予行演習のため、岩国基地に飛来した。  
平成28年5月26日 オスプレイ1機が岩国基地に飛来した。  
平成28年5月27日 オスプレイ6機が米国大統領の広島訪問のため西広島飛行場より飛来した。  
平成28年7月16日 オスプレイ1機が岩国基地に飛来した。  
平成28年7月19日 オスプレイ11機が岩国基地に飛来した。  
平成28年7月20日 オスプレイ5機が岩国基地に飛来した。  
平成28年7月21日 オスプレイ1機が岩国基地に飛来した。  
平成28年7月22日 オスプレイ2機が岩国基地に飛来した。  
平成28年8月24日 オスプレイ4機が岩国基地に飛来した。  
平成28年8月29日 オスプレイ4機が岩国基地に飛来した。  
平成28年8月30日 オスプレイ1機が岩国基地に飛来した。空母艦載機のC-2グレイハウンド2機をCMV-22Bオスプレイ(海軍用の輸送機)と交代するとの報道があった。  
平成28年9月6日 オスプレイ1機が岩国基地に飛来した。  
平成28年9月16日 岩国基地港湾施設でオスプレイ2機が輸送船より搬入された。  
平成28年10月20日 オスプレイ4機が岩国基地に飛来した。

平成28年10月21日 オスプレイ2機が岩国基地に飛来した。  
 平成28年10月24日 オスプレイ3機が岩国基地に飛来した。  
 平成28年10月25日 オスプレイ1機が岩国基地に飛来した。  
 平成28年10月30日 オスプレイ1機が岩国基地に飛来した。  
 平成28年11月8日 オスプレイ1機が岩国基地に飛来した。  
 平成28年12月8日 オスプレイ5機が岩国基地に飛来した。  
 平成28年12月13日 沖縄県名護市で普天間基地所属のMV-22オスプレイ1機が不時着水。搭乗員5名は無事、うち2名が負傷した。  
 平成28年12月19日 12月13日の事故後、オスプレイの飛行が再開した。

平成29年(2017)

平成29年1月30日 オスプレイ2機が岩国基地に飛来した。  
 平成29年1月31日 オスプレイ4機が岩国基地に飛来した。  
 平成29年2月3日 オスプレイ2機が岩国基地に飛来した。  
 平成29年2月23日 オスプレイ2機が岩国基地に飛来した。  
 平成29年3月5日 オスプレイ6機が岩国基地に飛来した。  
 平成29年3月6日 オスプレイ1機が岩国基地に飛来した。  
 平成29年3月7日 オスプレイ1機が岩国基地に飛来した。  
 平成29年3月14日 米国防省がCV-22オスプレイの横田基地の配備延期について発表した。  
 平成29年3月22日 オスプレイ6機が岩国基地に飛来した。  
 平成29年3月30日 オスプレイ2機が岩国基地に飛来した。  
 平成29年4月3日 オスプレイ3機が岩国基地に飛来した。  
 平成29年4月27日 オスプレイ8機が岩国基地に飛来した。  
 平成29年5月3日 オスプレイ3機が岩国基地に飛来した。  
 平成29年5月16日 オスプレイ1機が岩国基地に飛来した。  
 平成29年6月22日 オスプレイ1機が岩国基地に飛来した。  
 平成29年7月29日 オスプレイ3機が岩国基地に飛来した。  
 平成29年8月1日 オスプレイ1機が岩国基地に飛来した。  
 平成29年8月2日 オスプレイ1機が岩国基地に飛来した。  
 平成29年8月5日 オーストラリア東海岸で普天間基地所属のオスプレイが墜落事故発生。搭乗員3名が死亡した。  
 平成29年8月7日 山口県基地関係県市町連絡協議会として、中国四国防衛局に対し、8月5日のオスプレイの事故に関する情報提供、原因究明、安全対策等を要請した。  
 平成29年8月11日 オスプレイ4機が岩国基地に飛来した。  
 平成29年8月12日 オスプレイ6機が岩国基地に飛来した。  
 平成29年8月26日 オスプレイ1機が岩国基地に飛来した。  
 平成29年8月27日 オスプレイ2機が岩国基地に飛来した。  
 平成29年8月29日 オスプレイ4機が岩国基地に飛来した。  
 平成29年9月8日 オスプレイ1機が岩国基地に飛来した。  
 平成29年9月13日 オスプレイ1機が岩国基地に飛来した。  
 平成29年9月15日 オスプレイ1機が岩国基地に飛来した。  
 平成29年10月26日 オスプレイ3機が岩国基地に飛来した。  
 平成29年10月30日 オスプレイ2機が岩国基地に飛来した。  
 平成29年11月1日 オスプレイ1機が岩国基地に飛来した。  
 平成29年11月25日 オスプレイ3機が岩国基地に飛来した。  
 平成29年11月30日 オスプレイ3機が岩国基地に飛来した。  
 平成29年12月7日 オスプレイ4機が岩国基地に飛来した。

平成29年12月 9日	オスプレイ 2機が岩国基地に飛来した。
平成29年12月10日	オスプレイ 2機が岩国基地に飛来した。
平成29年12月11日	オスプレイ 2機が岩国基地に飛来した。
平成29年12月12日	オスプレイ 2機が岩国基地に飛来した。
平成29年12月13日	オスプレイ 5機が岩国基地に飛来した。
平成29年12月15日	オスプレイ 4機が岩国基地に飛来した。
平成29年12月16日	オスプレイ 2機が岩国基地に飛来した。
平成29年12月18日	オスプレイ 2機が岩国基地に飛来した。
平成29年12月20日	オスプレイ 3機が岩国基地に飛来した。
平成29年12月21日	オスプレイ 2機が岩国基地に飛来した。
平成29年12月27日	オスプレイ 1機が岩国基地に飛来した。

平成30年(2018)

平成30年1月 6日	オスプレイ 2機が岩国基地に飛来した。
平成30年1月 7日	オスプレイ 4機が岩国基地に飛来した。
平成30年1月11日	オスプレイ 1機が岩国基地に飛来した。
平成30年1月12日	オスプレイ 4機が岩国基地に飛来した。
平成30年1月15日	オスプレイ 2機が岩国基地に飛来した。
平成30年1月18日	オスプレイ 1機が岩国基地に飛来した。
平成30年1月19日	オスプレイ 2機が岩国基地に飛来した。
平成30年1月21日	オスプレイ 3機が岩国基地に飛来した。
平成30年2月13日	オスプレイ 5機が岩国基地に飛来した。
平成30年2月14日	オスプレイ 2機が岩国基地に飛来した。
平成30年2月23日	オスプレイ 4機が岩国基地に飛来した。
平成30年3月 9日	オスプレイ 2機が岩国基地に飛来した。
平成30年3月28日	オスプレイ 3機が岩国基地に飛来した。
平成30年3月30日	オスプレイ 5機が岩国基地に飛来した。
平成30年3月31日	オスプレイ 1機が岩国基地に飛来した。
平成30年4月 2日	オスプレイ 2機が岩国基地に飛来した。
平成30年4月 3日	オスプレイ 4機が岩国基地に飛来した。在日米軍が、2018年夏頃に、横田基地へCV-22オスプレイを5機配備すること、今後数年間で段階的に計10機を配備することを発表した。
平成30年4月 4日	オスプレイ 2機が岩国基地に飛来した。
平成30年4月 6日	オスプレイ 2機が岩国基地に飛来した。
平成30年4月 7日	オスプレイ 3機が岩国基地に飛来した。
平成30年4月25日	オスプレイ 1機が岩国基地に飛来した。
平成30年4月26日	オスプレイ 1機が岩国基地に飛来した。
平成30年4月27日	オスプレイ 1機が岩国基地に飛来した。
平成30年5月 2日	オスプレイ 4機が岩国基地に飛来した。
平成30年5月 3日	オスプレイ 2機が岩国基地に飛来した。
平成30年5月 4日	オスプレイ 5機が岩国基地に飛来した。
平成30年5月 5日	オスプレイ 5機が岩国基地に飛来した。
平成30年5月 6日	オスプレイ 1機が岩国基地に飛来した。
平成30年6月 4日	オスプレイ 5機が岩国基地に飛来した。
平成30年6月14日	オスプレイ 4機が岩国基地に飛来した。
平成30年6月18日	オスプレイ 2機が岩国基地に飛来した。
平成30年6月26日	オスプレイ 2機が岩国基地に飛来した。
平成30年6月28日	オスプレイ 1機が岩国基地に飛来した。

平成30年7月 4日	オスプレイ 1機が岩国基地に飛来した。
平成30年7月 6日	オスプレイ 3機が岩国基地に飛来した。
平成30年7月11日	オスプレイ 1機が岩国基地に飛来した。
平成30年7月12日	オスプレイ 2機が岩国基地に飛来した。
平成30年7月13日	オスプレイ 1機が岩国基地に飛来した。
平成30年7月14日	オスプレイ 2機が岩国基地に飛来した。
平成30年7月16日	オスプレイ 2機が岩国基地に飛来した。
平成30年7月17日	オスプレイ 2機が岩国基地に飛来した。
平成30年7月18日	オスプレイ 2機が岩国基地に飛来した。
平成30年7月19日	オスプレイ 1機が岩国基地に飛来した。
平成30年7月20日	オスプレイ 5機が岩国基地に飛来した。
平成30年7月21日	オスプレイ 1機が岩国基地に飛来した。
平成30年7月22日	オスプレイ 3機が岩国基地に飛来した。
平成30年7月26日	オスプレイ 2機が岩国基地に飛来した。
平成30年8月22日	在日米軍から、5機のCV-22オスプレイを2018年10月1日に横田基地に 配備し、2024年頃までに段階的に計10機のCV-22を横田飛行場へ配備す る旨の連絡があった。
平成30年9月 5日	オスプレイ 1機が岩国基地に飛来した。
平成30年9月 7日	オスプレイ 1機が岩国基地に飛来した。
平成30年9月14日	オスプレイ 5機が岩国基地に飛来した。
平成30年9月18日	オスプレイ 1機が岩国基地に飛来した。
平成30年10月1日	CV-22オスプレイ 5機が横田基地に配備された。
平成30年10月2日	オスプレイ 5機が岩国基地に飛来した。
平成30年10月11日	オスプレイ 2機が岩国基地に飛来した。
平成30年10月12日	オスプレイ 1機が岩国基地に飛来した。
平成30年10月13日	オスプレイ 2機が岩国基地に飛来した。
平成30年10月15日	オスプレイ 3機が岩国基地に飛来した。
平成30年10月18日	オスプレイ 1機が岩国基地に飛来した。
平成30年10月23日	オスプレイ 2機が岩国基地に飛来した。
平成30年12月 3日	オスプレイ 5機が岩国基地に飛来した。
平成30年12月 6日	オスプレイ 3機が岩国基地に飛来した。
平成30年12月 7日	オスプレイ 3機が岩国基地に飛来した。
平成30年12月 8日	オスプレイ 2機が岩国基地に飛来した。
平成30年12月 9日	オスプレイ 2機が岩国基地に飛来した。
平成30年12月10日	オスプレイ 1機が岩国基地に飛来した。
平成30年12月11日	オスプレイ 1機が岩国基地に飛来した。
平成30年12月12日	オスプレイ 3機が岩国基地に飛来した。
平成30年12月13日	オスプレイ 3機が岩国基地に飛来した。
平成30年12月14日	オスプレイ 3機が岩国基地に飛来した。
平成30年12月16日	オスプレイ 2機が岩国基地に飛来した。
平成30年12月17日	オスプレイ 4機が岩国基地に飛来した。
平成30年12月21日	オスプレイ 1機が岩国基地に飛来した。
平成30年12月26日	オスプレイ 1機が岩国基地に飛来した。
平成31年(2019)	
平成31年1月 4日	オスプレイ 4機が岩国基地に飛来した。
平成31年2月 4日	オスプレイ 4機が岩国基地に飛来した。
平成31年2月 9日	オスプレイ 4機が岩国基地に飛来した。

平成 31 年 3 月 5 日 オスプレイ 1 機が岩国基地に飛来した。  
 平成 31 年 3 月 11 日 オスプレイ 5 機が岩国基地に飛来した。  
 平成 31 年 3 月 19 日 オスプレイ 4 機が岩国基地に飛来した。  
 平成 31 年 3 月 28 日 オスプレイ 1 機が岩国基地に飛来した。  
 平成 31 年 4 月 1 日 オスプレイ 1 機が岩国基地に飛来した。  
 平成 31 年 4 月 2 日 オスプレイ 3 機が岩国基地に飛来した。  
 平成 31 年 4 月 3 日 オスプレイ 1 機が岩国基地に飛来した。  
 平成 31 年 5 月 13 日 オスプレイ 2 機が岩国基地に飛来した。  
 平成 31 年 5 月 15 日 オスプレイ 2 機が岩国基地に飛来した。  
 平成 31 年 5 月 31 日 オスプレイ 1 機が岩国基地に飛来した。  
 平成 31 年 6 月 14 日 オスプレイ 2 機が岩国基地に飛来した。  
 平成 31 年 7 月 22 日 オスプレイ 3 機が岩国基地に飛来した。  
 平成 31 年 7 月 26 日 オスプレイ 3 機が岩国基地に飛来した。  
 平成 31 年 8 月 19 日 オスプレイ 1 機が岩国基地に飛来した。  
 平成 31 年 8 月 23 日 オスプレイ 2 機が岩国基地に飛来した。  
 平成 31 年 8 月 24 日 オスプレイ 1 機が岩国基地に飛来した。

※以降、岩国基地に関する飛来情報の提供なし

## コ F-35B の岩国基地への配備（機種更新）の経緯

平成 25 年(2013)

平成 25 年 10 月 3 日 「日米安全保障協議委員会」（2+2）において、米国外では初の前方配備として、米海兵隊 F-35B を 2017 年に日本に配備することを日米両政府で確認した。

平成 28 年（2016）

平成 28 年 8 月 22 日 外務大臣政務官及び防衛大臣政務官が来庁し、F-35B の岩国飛行場への配備計画・配備に伴う航空機騒音について説明された。説明を受け、市長は、今後、騒音による住民生活への影響をはじめ、機体の安全性など、様々な観点から適切に判断する必要がある」とし、F-35B の配備に係る騒音予測コンターの提示を依頼した。

平成 28 年 8 月 25 日 F-35B の岩国飛行場への配備についての 17 項目を国に文書照会を行った。

平成 28 年 9 月 23 日 国から文書回答及び騒音予測コンターの提示があった。

平成 28 年 9 月 27 日 F-35B の岩国飛行場への配備について全員協議会が開催され、防衛大臣政務官他から説明を受けた。

平成 28 年 9 月 29 日 山口県が「F-35B の岩国飛行場への配備について（中間取りまとめ）」を公表した。

平成 28 年 10 月 24 日 市長が F-35B が配備されている米国ユマ基地を視察し、実機による飛行状況の把握、騒音の体感、関係者のブリーフィング、意見交換等を行った。

平成 28 年 11 月 2 日 市長が市議会全員協議会において、F-35B の岩国飛行場への配備について 17 項目の文書照会、全員協議会の開催、ユマ基地での視察などにより、住民生活への影響について検証した結果、現状より悪化することはないことが確認されたことを説明し、受け入れを了承する旨、発言した。

平成 28 年 11 月 7 日 山口県が「F-35B の岩国基地への配備について（最終取りまとめ）」を公表した。

平成 28 年 11 月 8 日 山口県及び地元市町（周防大島町・和木町）と協議し、「F-35B の岩国

配備に係る検討結果」を整理し、配備計画の受け入れを了承することとした。

協議後、国から、10月27日に米国でF-35BのクラスAの事故が発生していたとの情報提供があった。

平成28年11月9日 F-35BのクラスAの事故を受け、山口県と協議を行い、機体の安全性について、改めて精査するため、配備計画の受け入れ了承の判断を一旦留保した。

平成28年11月29日 外務副大臣及び防衛大臣政務官が来庁し、「米側は、機体の構造上の問題があると疑う理由はないと判断している。」「政府としても、配備に関し安全性について問題はないと考えている。」などF-35BのクラスAの事故状況・原因等や再発防止策等について説明を受けた。

平成28年12月13日 県及び市が岩国基地配備機の安心・安全対策の取組について国に文書照会を行った。

平成28年12月16日 国から岩国基地配備機の安心・安全対策の取組について「政府としては、これまでも米国政府に申し入れを行っており、引き続き機会を捉えて申し入れていく。」「米側に対して、迅速な情報提供を求め、関係自治体等への迅速な情報提供に努めていく。」旨の文書回答があった。

また、F-35BのクラスAの事故状況・原因等や再発防止策等について全員協議会が開催され、外務副大臣・防衛大臣政務官から説明を受けた。

平成28年12月20日 市議会本会議において、F-35Bの岩国飛行場への配備に係る市の対応について報告を行った。

平成28年12月21日 市長と知事が外務省および防衛省を訪問し、外務副大臣および防衛大臣と面談を行い、要請や要望に対する国の回答を踏まえ、F-35Bの配備計画の受け入れを了承する旨伝えた。

平成29年（2017）

平成29年1月26日 F-35B第一陣10機の移駐が完了。

平成29年8月30日 国からF-35B第二陣6機の移駐が、本年9月以降になる旨の情報提供があった。

平成29年11月15日 F-35B第二陣6機の移駐が完了。

## サ 基地従業員の状況

在日米軍が、その任務を達成するために必要な労働力は、「日本国とアメリカ合衆国との間の相互協力及び安全保障条約第6条に基づく施設及び区域並びに日本国における合衆国軍隊の地位に関する協定（地位協定）」〔資料2(2)〕第12条第4項により我が国の援助を得て充足されることになっている。

国は、在日米軍が必要とする労働力を提供するため、在日米軍との間で基本労務契約（MLC）、船員契約（MC）及び諸機関労務協約（IHA）という三つの労務提供契約を締結している。この労務提供契約に基づいて、国は従業員を雇用して在日米軍に提供し、在日米軍は使用者として職場において従業員を指揮・監督している。この雇用方式は間接雇用方式と呼ばれている。

### ①基本労務契約「Master Labor Contract（「MLC）」

MLC従業員は、各軍の司令部や部隊等に勤務する者。

### ②船員契約「Mariner's Contract（「MC）」

MC従業員は、非戦闘用船舶で勤務する者。岩国基地には該当者なし。

### ③諸機関労務協約「Indirect Hire Agreement（IHA）」

IHA従業員は、地位協定第15条に基づく施設内の諸機関の食堂、売店等に勤務する者。なお、本協約には時給制臨時従業員（HPT=Hourly Pay Temporary）雇用制度がある。

## （ア） 従業員の身分と種類

在日米軍従業員は、国に雇用され、給与も国から支払われているが、身分的には、国家公務員ではなく「国が雇用するもの」と法律で定められている。（注）

また、雇用には常用従業員、高齢従業員、時給制臨時従業員等の種類がある。

### （注）

日本国との平和条約の効力の発生および日本国とアメリカ合衆国との間の安全保障条約第3条に基づく行政協定の実施等に伴い国家公務員法等の一部を改正する等の法律（昭和27年6月10日法律第174号）第8条第1項

#### （駐留軍等労働者の身分）

第8条 日本国とアメリカ合衆国との間の相互協力及び安全保障条約〔昭和35年6月条約第6号〕に基づき駐留するアメリカ合衆国軍隊、日本国とアメリカ合衆国との間の相互協力及び安全保障条約第六条に基づく施設及び区域並びに日本国における合衆国軍隊の地位に関する協定〔昭和35年6月条約第7号〕第15条第1項(a)に規定する諸機関、日本国における国際連合の軍隊の地位に関する協定に基づき本邦内にある国際連合の軍隊又は日本国とアメリカ合衆国との間の相互防衛援助協定第7条の規定に基づくアメリカ合衆国政府の責務を本邦において遂行する同国政府の職員のために労務に服する者で国が雇用するもの（以下「駐留軍等労働者」という。）は、国家公務員でない。

(イ) 従業員数

従業員数は、ピーク時の昭和 26～27 年頃には全国で約 30 万人、岩国基地で約 3,000 人を数えたが、その後は急速に減少した。その後昭和 54 年以降は約 1,000 人から 1,200 人あまりで推移していたが、平成 28 年以降は増加傾向にある。

表 2-11 従業員数の推移

(各年度 3 月 31 日現在)

年度	区分	基本労務契約 (MLC)	諸機関労務契約 (IHA)	合計
昭和	51 年度	876	271	1,147
	52 年度	865	227	1,092
	53 年度	878	158	1,036
	54 年度	872	158	1,030
	55 年度	876	165	1,041
	56 年度	870	196	1,066
	57 年度	848	221	1,069
	58 年度	858	242	1,100
	59 年度	830	237	1,067
	60 年度	835	225	1,060
	61 年度	831	293	1,124
	62 年度	823	298	1,121
	63 年度	814	294	1,108
平成	元 年度	800	278	1,078
	2 年度	792	330	1,122
	3 年度	795	319	1,114
	4 年度	807	325	1,132
	5 年度	795	314	1,109
	6 年度	812	325	1,137
	7 年度	809	322	1,131
	8 年度	816	333	1,149
	9 年度	821	345	1,166
	10 年度	807	346	1,153
	11 年度	792	330	1,122
	12 年度	813	333	1,146
	13 年度	864	334	1,198
	14 年度	861	360	1,221
	15 年度	873	329	1,202
	16 年度	876	318	1,194
	17 年度	875	317	1,192
	18 年度	860	327	1,187
	19 年度	858	326	1,184
	20 年度	864	338	1,202
	21 年度	885	324	1,209
	22 年度	878	313	1,191



年度	区分	基本労務契約	諸機関労務契約	合計
		(MLC)	(IHA)	
23	年度	892	322	1,214
24	年度	903	317	1,220
25	年度	916	317	1,233
26	年度	939	305	1,244
27	年度	1,003	283	1,286
28	年度	1,148	267	1,415
29	年度	1,222	294	1,516
30	年度	1,234	310	1,544

(独立行政法人 駐留軍等労働者労務管理機構岩国支部)

#### (4) 海上自衛隊岩国航空基地の現況

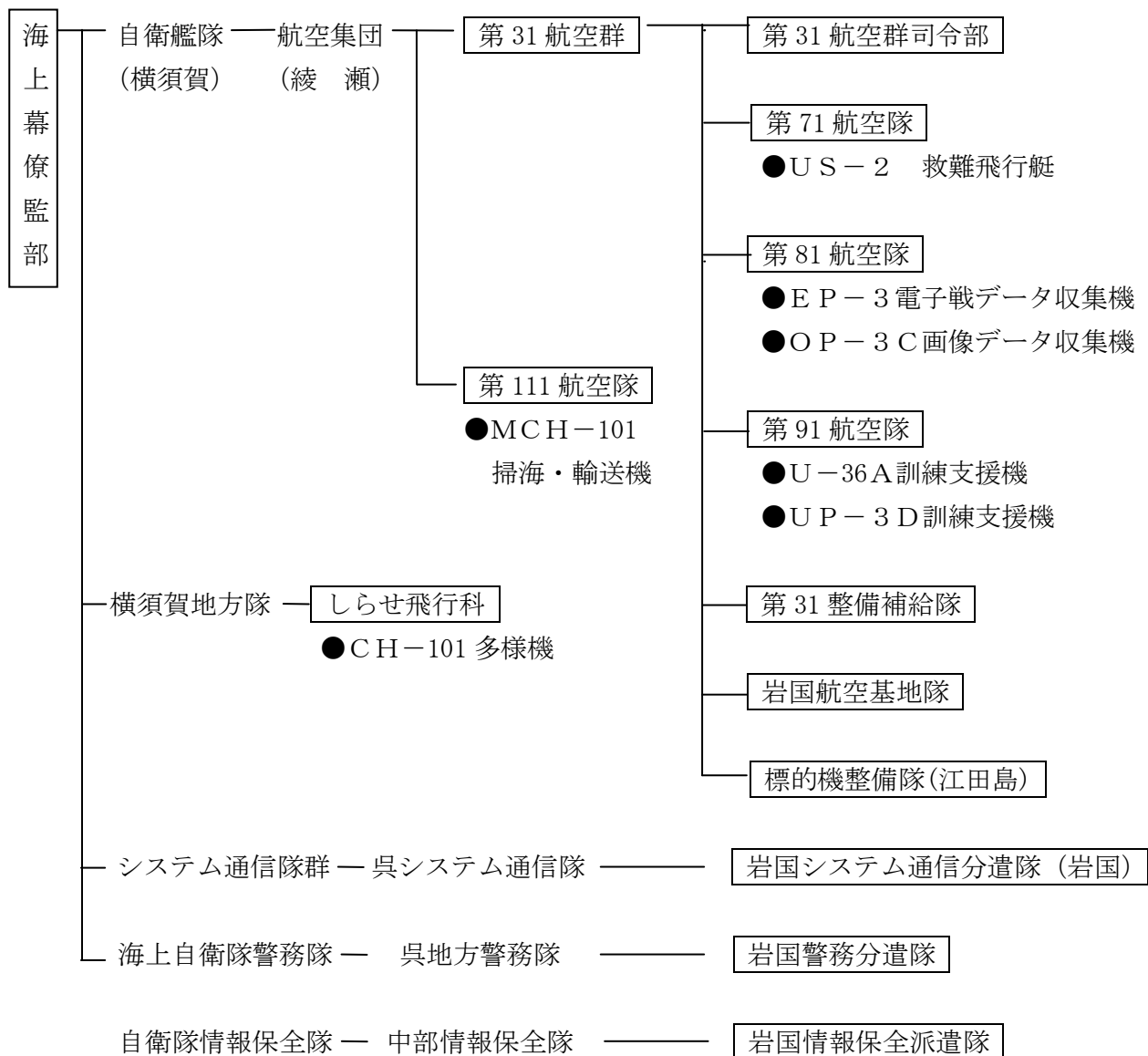
海上自衛隊は、昭和27年4月26日海上保安庁の一組織として生まれた海上警備隊が昭和29年7月1日に海上自衛隊として発足したことに始まる。(昭和29年7月1日防衛庁設置法、自衛隊法の施行により陸上自衛隊、海上自衛隊、航空自衛隊が発足する。)

海上自衛隊は、海上からの侵略に対し我が国を防衛するとともに、我が国周辺海域における海上交通の安全を確保することを主な任務としている。

海上自衛隊岩国航空基地は、昭和32年3月海上自衛隊岩国教育航空隊が米海兵隊と共同使用を始めて以来、教育関係部隊による使用を経て、昭和43年6月に第51航空隊岩国航空分遣隊が開設(昭和58年3月廃止)、さらに昭和48年3月には第31航空群、昭和51年7月には第71航空隊、昭和58年3月には第81航空隊が新編された。平成元年3月には第31航空隊が解隊され、同年9月第111航空隊が下総基地から移駐、平成4年7月には第8航空隊が、平成5年4月には岩国調査分遣隊がそれぞれ新編、平成10年12月には第31支援整備隊が第31整備補給隊に新編され、平成13年3月には第8航空隊が解隊、第81航空隊が改編、第91航空隊が新編された。平成14年3月には江田島に所在する標的機整備隊が新編され、第31航空群の隷下に編入され現在に至っている。

ア 組織及び編成

(平成 31 年 4 月 1 日現在)

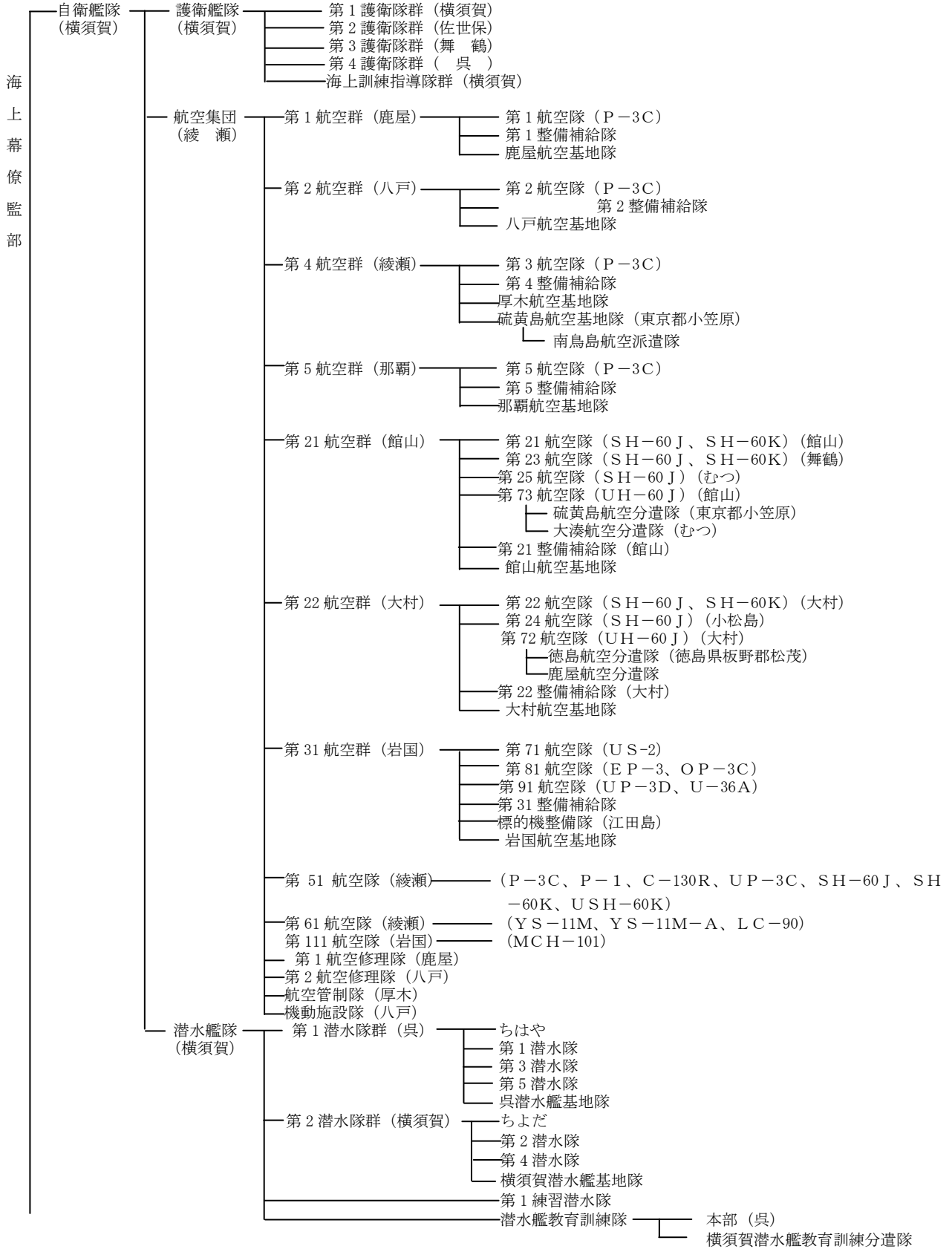


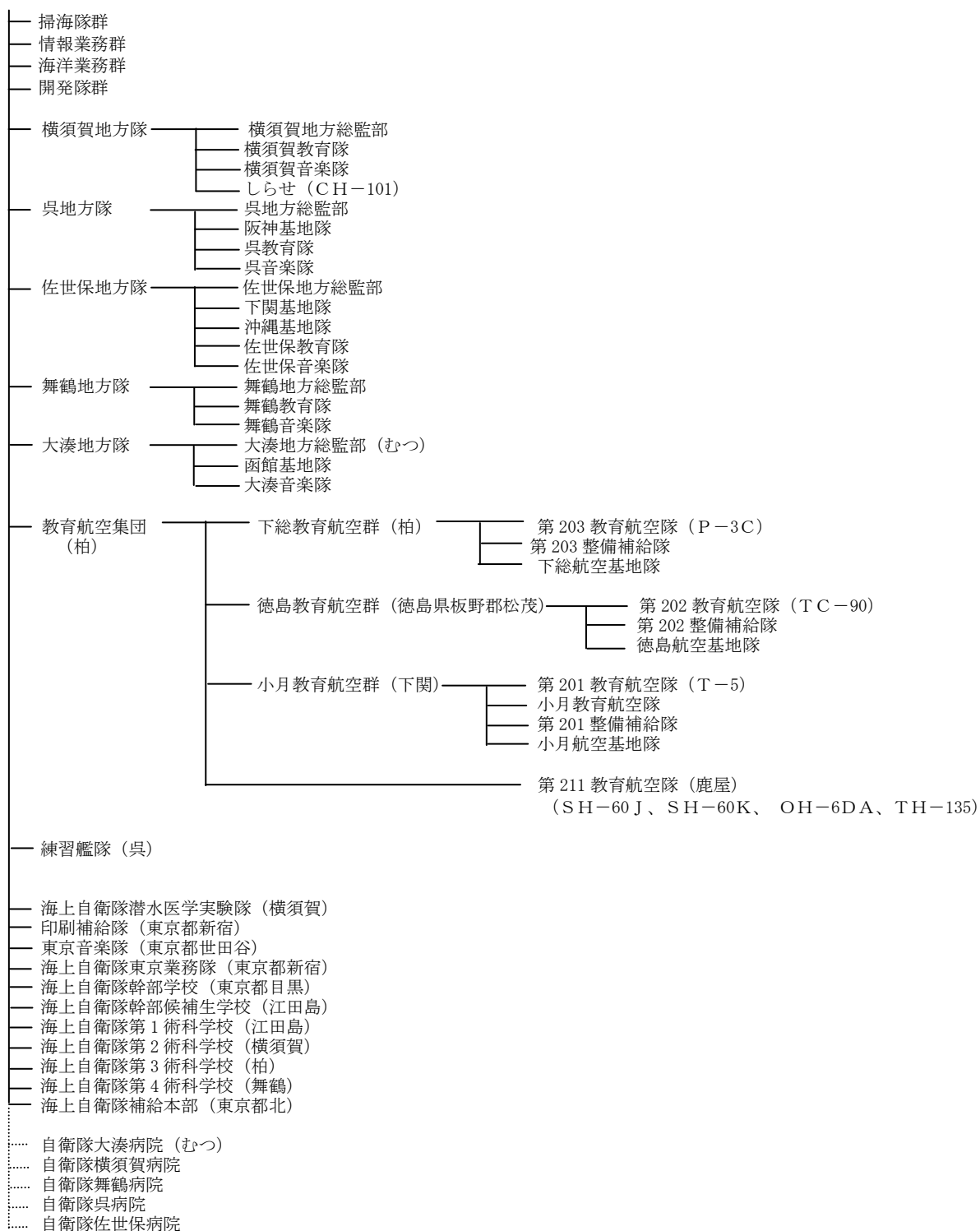
(海上自衛隊第 31 航空群)

図 2 - 6 海上自衛隊 組織図 (略図)

イ 部隊編成図

(平成 31 年 4 月 1 日現在)





(海上自衛隊第31航空群)

図2-7 海上自衛隊部隊編成図(略図)

ウ 各部隊の任務

表 2-12 各部隊の任務 (海上自衛隊)

航空隊名	任務
第 7 1 航空隊	救難飛行艇US-2を保有し、遭難航空機や遭難船舶の捜索及び乗組員の救助、外洋の船舶、離島からの急患輸送等の任務を実施している。
第 8 1 航空隊	EP-3による電子戦データ収集及びOP-3Cによる画像データ収集の任務を実施している。
第 9 1 航空隊	訓練支援機U-36A、UP-3Dを保有し、艦艇部隊等に対して、訓練支援の任務を実施している。
第 1 1 1 航空隊	掃海・輸送機MCH-101を保有し、航空掃海、局地輸送、災害派遣の任務を実施している。
第 31 整備補給隊	岩国航空基地に所属する全ての航空機及び航空機に搭載する装備品の点検整備及び地上訓練装置、基地器材の維持管理並びに燃料、部品補給の任務を実施している。
岩国航空基地隊	岩国航空基地の隊員に対する給与、給食、福利厚生、衛生、健康管理をはじめとして、航空機の運航管制、基地施設の維持整備、警衛、支援船の運航等多様な支援業務の任務を実施している。

(海上自衛隊第 31 航空群)

エ 第 31 航空群歴代司令

表 2-13 第 31 航空群歴代司令

階級	司令名	在職期間
1 佐 海 将 補	宮 澤 昌 介 門 松 安 彦	昭和 48. 3. 1 ~ 昭和 50. 6. 30
		50. 7. 1 ~ 52. 6. 30
" "	青 野 壮 介 小 崎 啓 介	52. 7. 1 ~ 53. 12. 9
		53. 12. 10 ~ 55. 2. 14
1 佐 海 将 補	小 朝 倉 豊 松 尾 亨	55. 2. 15 ~ 56. 12. 24
		56. 12. 25 ~ 58. 10. 11
" "	岡 田 毅 田 中 稔	58. 10. 12 ~ 59. 12. 2
		59. 12. 3 ~ 62. 3. 15
" "	林 村 越 夫 武 村 正 一	62. 3. 16 ~ 平成 元. 8. 30
		平成 元. 8. 31 ~ 3. 6. 30
" "	杉 山 靖 樹 福 谷 薫	3. 7. 1 ~ 5. 6. 30
		5. 7. 1 ~ 6. 12. 4
" "	西 島 宜 弘 江 本 泉	6. 12. 5 ~ 8. 6. 30
		8. 7. 1 ~ 11. 3. 28
" "	栗 畑 芳 弘 宮 本 治 幸	11. 3. 29 ~ 13. 6. 28
		13. 6. 29 ~ 15. 3. 26
" "	松 岡 貞 義 岩 田 耕 道	15. 3. 27 ~ 16. 8. 29
		16. 8. 30 ~ 18. 3. 26

階 級	司 令 名				在 職 期 間						
〃	植	月	政	則	18.	3.	27	～	20.	7.	31
〃	大	谷	祥	治	20.	8.	1	～	21.	12.	6
〃	小	松	龍	也	21.	12.	7	～	24.	7.	25
〃	眞	木	信	正	24.	7.	26	～	26.	8.	4
〃	大	瀬	戸	功	26.	8.	5	～	27.	8.	3
〃	園	田	直	紀	27.	8.	4	～	28.	12.	21
〃	畠	野	俊	一	28.	12.	22	～	29.	3.	26
〃	二	川	達	也	29.	3.	27	～	30.	3.	26
〃	森	田	義	和	30.	3.	27	～	31.	3.	31
〃	大	西	哲	哲	31.	4.	1	～			

(海上自衛隊第 31 航空群)

才 常駐航空機

(令和元年 12 月 1 日現在)

#### US-2 救難飛行艇

全 幅 33.15m  
 全 長 33.25m  
 全 高 10.06m  
 全備重量 約 47,700kg  
 速 度 (最大) 315Kt  
 乗 員 11 名



(海上自衛隊第 31 航空群)

#### EP-3 電子戦データ収集機

全 幅 30.4m  
 全 長 32.7m  
 全 高 10.3m  
 離陸重量 56,000kg  
 速 度 (最大) 370Kt  
 乗 員 15 名



(海上自衛隊第 31 航空群)

### OP-3C 電子戦データ収集機

全 幅 30.4m  
全 長 32.7m  
全 高 10.3m  
離陸重量 56,000kg  
速 度 (最大) 370Kt  
乗 員 10 名



(海上自衛隊第 31 航空群)

### U-36A 訓練支援機

全 幅 12.04m  
全 長 14.81m  
全 高 3.73m  
離陸重量 8,900kg  
速 度 (最大) 0.81 マッハ  
乗 員 4 名



(海上自衛隊第 31 航空群)

### UP-3D 訓練支援機

全 幅 30.4m  
全 長 32.7m  
全 高 10.3m  
離陸重量 56,000kg  
速 度 (最大) 370Kt  
乗 員 8 名



(海上自衛隊第 31 航空群)

### MCH-101 掃海・輸送機

全 幅 18.6m  
全 長 22.8m  
全 高 6.6m  
離陸重量 14,600kg  
速 度 (最大) 150Kt  
乗 員 4名



(海上自衛隊第111航空隊)

### CH-101 しらせ搭載機

全 幅 18.6m  
全 長 22.8m  
全 高 6.6m  
離陸重量 14,600kg  
速 度 (最大) 150Kt  
乗 員 4名



(海上自衛隊砕氷艦しらせ)